



# Executive Interview

エグゼクティブ  
インタビュー

no.66

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

タカネ電機株式会社  
代表取締役会長 CEO

## 箕原 利憲 様

川崎市中原区で電子機器関連計測器や内部ユニットの開発・設計・製品化、ワイヤーハーネス加工などを手がけるタカネ電機株式会社。富士の高嶺を目指して成長することを願い、1964年に創業して53年。2代目として国内のみならず海外にも展開する企業に育て上げた箕原利憲氏にお話を伺いました。

### ■ 人材豊富な会社であることが私の自慢

#### ——創業からの経緯を教えてください。

父が川崎市中原区宮内に工場を建設したのが始まりです。当時は従業員15人ほど。私自身は学生でした。大学を卒業する頃には30人ほどの規模になりましたが、父からは「この先はわからないから、自分の道を進め」と言われ、貿易商社に就職しました。香港に5年、アメリカに5年駐在し、15年間勤務しましたが、父は70歳を過ぎ、得意先から「後継者がしっかりしていない会社とは取引できない」と釘を刺され、私に事業を任せることを決断しました。幸い、勤務先の幹部と両親は、仲人をつとめ合うなど私的な繋がりもあり、事情をよく知る仲でしたので、円満に退社することができ、その後も当社の

海外進出のパートナーとなるなど、長いお付き合いをさせてもらっています。

#### ——大手メーカーから受注があり、国内にいくつもの工場がある企業とはいえ、1993年の海外進出は大きな決断だったのでは？

そうですね。当時は350人くらいの従業員がいましたが、組立作業員の人手不足や賃金の上昇などが重なり、なんとかしなければいけない状況でした。場所と人材さえ確保できればなんとかなるのではと、東南アジア各国を見て回り、進出場所は中国にしよう決めました。私自身が香港に5年いたのでコミュニケーションの取り方など、現地に必要な経験がありました。

商社にいた私は海外で仕事をすることや、外国人と取引をすることには慣れて

いましたが、社内には海外事業展開のノウハウは全くなく、言葉の壁もありました。経営会議では、全員が大反対でした。説得の末、「社長が声をかけて承知する人間がいれば認める」ということになり、とある人物に「一緒にやろう」と声をかけました。そうしたらOKしてくれてね(笑)。細かいことにこだわらず、何とかなるというおおらかな、中国という土地にぴったりの人物でした。今では、中国に現地法人と2つの工場、タイにも工場が1つ。国内工場は4か所ありますが、売上比率は海外と国内で8:2。海外売上がメインとなりました。

#### ——それだけの規模の企業を運営していくコツはあるのでしょうか？

拠点を任せることのできるキースタッフを育てることが一番大切です。私自身が



# 責任はトップが取ること、 失敗を恐れずにチャレンジ できるはず。

国内外、たくさんある拠点全てを丁寧に見て回るわけにはいきません。頼りになる部下を配置し、それぞれ責任持ってやってくれているのを年に1~2回「どうだ?」と様子を見るという方式でない。少々自慢になりますが、キースタッフは私の長い人生の中での付き合いや経験の中で出会い、育った人たちばかり。会社の後継者となった社長の吉田慶次は若い頃に若手経営者の会で一緒に活動してきた仲間で、蘇州に17年も単身赴任し、一度も「帰りたい」と口にしなかった人物。海外事業のスペシャリストですからオペレーションは全て任せています。私の仕事は責任を取ることのみ。

また、取引先の大手企業の方で「一緒に働きたい」と言ってくれた人物もいます。縁に恵まれているんです。若手にもね、自社、他社関係なく私のノウハウをできるだけ残してやりたいと思って、ついつい余計なことを言ったりします。彼らからすると、私はかなりきつい相手かもしれない(笑)。

## ■ 中小企業的な経営へのこだわり

### ——人材の抜擢は難しいことでは?

チャレンジしようという気持ちがあるなら「やってみろ」と言えます。それが、保身だけの人物だと難しい。会議で新提案をすると、問題点が次々と指摘される。よくあることだと思いますが、問題点を指摘した人物はその分野をよく知っているということですから、あえて任せ、新提案を潰さず実行させる。失敗

しても親分が責任を取ってくれる環境ならば、それぞれの力を結集し、実現していくことができます。こういうやり方は大企業の合議制からは生まれ得ない、中小企業的な経営の良さだと思っています。好不況の波がある今、成功しているのは、トップの決断を、部下に責任を負わずに実行させている会社ではないかと思います。

### ——腹が据わっていなければできないことだと思います。いつから責任を自覚しましたか?

父が亡くなり、重要書類にハンコを押した瞬間からでしょうか。時代が時代でしたから、「もし会社がうまくいかなかったら、自宅もなくなるんだな」と経営者の重みを実感しました。そんな思いをさせたくない、現社長にバトンを渡しても代表権のある会長職にいるのはそういう理由からです。前々から権限は75歳で次世代に渡そうと考えていましたので今年75歳を迎え、実行しました。私には息子がいて、後継者として候補に入っていたのですが、自ら断りを入れて

## タカネ電機株式会社

〒211-0053 神奈川県川崎市中原区上小田中5-2-2  
なとりプラザ中原 2階

TEL:044-751-6101 FAX:044-751-6103  
<http://www.takane-jp.com/>

### 【国内拠点】

本社・宮内工場  
〒211-0051 神奈川県川崎市中原区宮内2-7-11

### 【工場】

宇都宮工場・茨城工場(伊奈)・茨城工場(石下)

### 【海外拠点】

高嶺電子有限公司(香港)  
高嶺電子(東莞)有限公司(中国・広東省)  
高嶺電子(蘇州)有限公司(中国・江蘇省)  
タカネエレクトロニクス(タイ)

きました。私の日常を見ていたらそう思うんでしょね。プライベートもほとんどなく、時には土日も弁当持参で仕事ですから。でも私自身は苦になりません。仕事が自分にとっての生き甲斐で、楽しみなのです。

とはいえ、会長になっても忙しい毎日、家で夕食をとるのは週1~2回程度。でも会合に出席することは苦にならないんですよ。経営者は会社にこもってはいけません。ダメだというのが私の持論。社員が問題に直面した時、一緒に頭を抱えるのではなく、培った情報網から助言や助力を与えて解決に導けばいいと考えています。それに役立つのが中小企業同士や専門家などとのつながり。それを構築していくことが経営者の重要な仕事だと思っています。



数々の功績が認められ、旭日勲章を受賞。人脈の広さと懐の深さで、会社と地域に頼りにされる存在です。

### <インタビューを終えて>

取材中から年齢を感じさせないパワーを感じました。聞けば、元気の源は朝食だとか。起き抜けのエゴマオイル、生ローヤルゼリー入りの野菜ジュース、黒にんにくと白黒ゴマにシナモンを振りかけた特製サラダ、アーモンド、スキムミルク、そしてパン半切れというメニューは栄養満点! 睡眠も7時間しっかりとしているとのこと、多忙な毎日は健康に支えられているのだと実感しました。